

レジリエントな社会を考える シンポジウム ~防災・減災の今を知る!~



毎年のように地震、大雨、台風などの大きな災害が頻発しており、また、近い将来には南海トラフ地震のような巨大災害が起こるとまで言われている我が国において、レジリエントな社会が本当に形成されているのか、また、レジリエントな社会を形成するために我々はどのような行動を心がけなければならないのかなどについて、都市社会工学の専門家や、防災・減災等に関する研究の社会実装を目指す大学研究者等をお招きし、専門家の知見や研究者の活動内容を知ること、「レジリエントな社会とは何か」を参加者の皆さまと一緒に見つめなおす機会にしたいと思います。

日時

令和5年 **12月22日** (金) 14:00~17:00

場所

京都経済センター 3F 3-F会議室

京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地

対象者

防災・減災、災害対応技術や関連ビジネスに興味がある企業等

※企業以外にも、一般の方、大学関係者、金融機関、産業支援機関

ハイブリッド開催

会場 **50名** | オンライン **50名**

参加費

無料

プログラム

14:00 開会

14:05~15:05 基調講演

「レジリエントな社会の形成に向けて」

藤井 聡 氏 京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻 教授

15:05~15:35 特別講演

「レジリエントデザインが可能な社会へ向けて」

槻橋 修 氏 建築家 博士(工学) 神戸大学大学院工学研究科 建築学専攻 教授
神戸大学減災デザインセンター長

15:35~15:45 休憩

15:45~17:00 オープンイノベーションピッチ

小椋 紀彦 氏 京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 インフラ先端技術産学共同講座 特定助教

高瀬 和男 氏 京都大学大学院 地球環境学学 客員教授

宮崎 祐輔 氏 京都大学大学院工学研究科 都市工学専攻 助教

越智 浩樹 氏 WOTA株式会社 執行役員 兼 渉外統括バイスプレジデント

17:00 閉会

※終了後、名刺交換を目的とした交流会を実施します。

アクセス



京都経済センター

- 京都市営地下鉄烏丸線「四條駅」北改札出ですぐ
- 阪急電車京都線「烏丸駅」26番出口直結
- 京都市営バス「四條烏丸」徒歩すぐ
- 京都市営地下鉄「京都駅」より烏丸線乗車3分
- 阪急電車「河原町駅」より京都線乗車2分
- 京阪電車「祇園四條駅」下車市営バス「四條京阪前」より乗車約9分

【主催】関西イノベーションイニシアティブ(KSII)・公益財団法人京都高度技術研究所(ASTEM)

【後援(予定)】公益社団法人関西経済連合会

基調講演者



藤井 聡氏

京都大学大学院工学研究科
都市社会工学専攻 教授

- 1993年 京都大学大学院修士課程修了
- 1998年 京都大学 博士(工学)取得
- 1998年 スウェーデン・イエテボリ大学心理学科、
認知・動機・社会心理学研究室 客員研究員
- 2006年 東京工業大学大学院理工学研究科
(土木工学専攻) 教授
- 2009年 京都大学大学院工学研究科
(都市社会工学専攻) 教授(～現在に至る)
- 2011年 京都大学レジリエンス研究ユニット長
(～現在に至る)
- 2012年 京都大学理事補(～現在に至る)
- 2012年 内閣官房参与(～2018年)

特別講演者



槻橋 修氏

建築家 博士(工学)
神戸大学大学院工学研究科
建築学専攻 教授
神戸大学減災デザインセンター長

- 1998年 東京大学大学院建築学専攻博士課程 退学
 - 2002年 ティーハウス建築設計事務所設立
 - 2003年～2009年 東北工業大学講師
 - 2009年 神戸大学大学院准教授
 - 2022年 神戸大学減災デザインセンター長
2023年より現職
- (受賞歴)
- 2009年 日本建築学会教育賞(教育貢献)共同受賞
 - 2014年 東日本大震災復興支援「失われた街」模型復元プロジェクトが
第40回放送文化基金賞受賞(NHK盛岡放送局と共同受賞)
 - 2015年 日本建築学会賞(業績)共同受賞
 - 2020年 都市景観大賞(国土交通大臣賞)共同受賞
 - 2021年 日本建築学会賞(業績・復旧復興特別賞)共同受賞

オープンイノベーションピッチ登壇者

小椋 紀彦氏 京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻 インフラ先端技術産学共同講座 特定助教

中小規模構造物を主な対象として、点検技術者が容易に撮影できる手持ちカメラ(360度カメラやスマートフォン)で、撮影した画像をクラウドサービス上で処理し、3次元モデルの構築、損傷検出、点検調査の作成までを一気通貫させ、点検の省力化、低価格化を図る研究

高瀬 和男氏 京都大学大学院 地球環境学堂 客員教授

従来の構造物の点検はベテラン技術者による構造物表面の観察により損傷を判断していた。今後は、構造物の本来評価すべき耐荷力に着目し、振動特性などのデジタル化された点検データから構造物の損傷を予知し、診断し、シミュレートする予測技術を有した、将来にわたり発展的かつ強靱な社会インフラの管理システムを研究

宮崎 祐輔氏 京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻 助教

土砂災害の発生のメカニズムを知る上で、重要な土中の水分情報について、従来の計測技術では点による評価が殆どである。この課題に対して、高解像度な波長情報を取得可能なハイパースペクトルカメラと呼ばれる撮影装置を用いて、土中水分の面的・立体的な評価方法を確立する研究

越智 浩樹氏 WOTA株式会社 執行役員 兼 渉外統括バイスプレジデント

水問題の構造的な解決を目指し、小規模分散型水循環システム等を開発しているWOTAに所属。災害時の断水状況下における応急的な水利用の実現や公衆衛生の向上に従事。また、日常的な水利用を実現する住宅向けの小規模分散型水循環システムの実証の成功を受け、国内外の自治体・政府などへの導入を進める。

申込方法

WEBからお申込みください。

<https://www.astem.or.jp/whatsnew/20231110-37433.html> ▶

※申込締切は12月20日(水)となります。なお、会場参加をご希望される方は、先着順となりますので、お早めにお申込みください。



お問い合わせ

公益財団法人京都高度技術研究所
京都市桂イノベーションセンター「シンポジウム事務局」
TEL : 075-391-1141 E-mail : kkie@astem.or.jp